

発行者：株式会社 サナ

本社営業所

埼玉県所沢市東所沢和田1-41-6
TEL:04-2946-2341

北関東営業所

埼玉県本庄市児玉町児玉1558
TEL:090-2476-0616

東北営業所

岩手県一関市滝沢字
矢ノ目沢73-262
TEL:0191-26-3737

九州営業所

福岡県糟屋郡粕屋町
上大隈435-1
TEL:092-939-3716

《今回のトピック》 自己酸化と放線菌発泡

少々、期間を空けてしまいましたが、前は低負荷発泡について触れました。おさらいをしますと、低負荷発泡とは、バクテリアの自己酸化によって生じ曝気で攪拌されることで解体した汚泥を巻き込んで発泡スカムが形成されていきます。

低負荷の状態だから、負荷を掛ければOKと負荷を掛けていき、やがて解消するだろうと普通なら考えます。そして水でシャワーをすれば消えもするので深刻さは低いかもしれません。

けど、その「泡」ほんとうに消えましたか……？

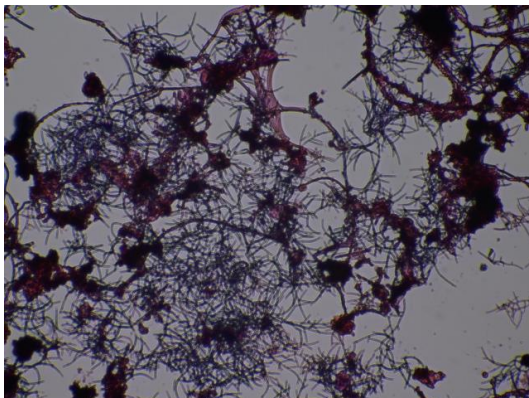
◆消えない低負荷発泡？

水シャワーも消泡剤も効かない粘ついた発泡スカムが曝気槽表面だけではなく沈殿槽センターウェルからもあふれ出て沈殿槽表面を覆いつくし、やがて越流堰を越え流出していきます。これを引き起こす正体は



◆それはっ、放線菌ツツ!!!

とても優秀な分解菌ですが、それは土壤の世界だけで、曝気槽で蔓延してしまうと上の画像のように物凄い発泡を引き起こします。放線菌は低負荷時に油脂があると増殖が加速し、それが出す疎水性の粘性分泌物が泡を作り出していきます。この「泡」のお問い合わせ、結構多いです。



グラム染色後



顕微鏡倍率 400倍

何故、放線菌が発生したか、何故、低負荷自己酸化と同時に発生したのかを原因から究明し解決。そして再発防止対策のご提案を経験豊かなスタッフが無料で実施します。

また、好調が続いた夏から季節が変わり、環境が変化する時に何かいつもと違う変化が起こっているかも知れません。お問い合わせ頂ければ、無償現地調査も実施させて頂いておりますので、お気軽にお声掛けください。